

命と向きあう時間

二年 望月華奈

私の家には、オリバーというヨークシャテリアがいる。初めて会ったとき、オリバーはしっぽをブンブンふって私のひざに飛びのってきた。まるで「ここが僕の家だ!」と言っているようだった。

それから毎日にぎやかになった。散歩中は知らない犬にあいさつしたり、公園では落ち葉の上をぴよんぴよんはねたり。学校から帰ると、玄関でぴよんぴよん飛びはねて私を迎えてくれる。「ただいま」よりも先に笑顔が出るようになった。

そんな元気なオリバーがある日、家の中で走り回っている時、タンスにぶつかってしまい、キャンキャンと泣き私達の方に向かって走ってきた。急いで病院に行くこと、

「関節が外れている」

と言われた。整復できるけど、抱っこしたり、足に負荷をかけるとまた簡単に関節が外れてしまうと先生に言われた。

それを聞いたとき、私は不安でいっぱいになった。でも、家に帰ってオリバーの顔を見たとき、「大丈夫、一緒にゆっくり過ごしていこう」と思えた。

それからは、いつも以上にオリバーとの時間を大事にするようになった。散歩の途中で立ち止まって風のおいをかぐオリバーを見てみると、「こんな時間がずっと続けばいいな」と思う。夜、一緒にねていると、オリバーのぬくもりが伝わってきて、ほっとする。

命はずっと続くわけじゃない。だからこそ「今」がすごく大事なんだと気づいた。オリバーとの日々はあたり前ではなくて、かけがえのない宝物なんだと思う。

オリバーが私にくれたものはたくさんある。笑顔、元気、やさしさ、そして命の大切さ。これからもオリバーと過ごせる一日一日を大切にしていきたい。

いつかお別れのとかがきても、私はきつと笑って言える。「オリバー、ありがとう。あなたと過ごさせて本当に幸せだったよ」って。